



伝統野菜を護る 小学生

心 あ つ た か ニ ュ ー ス

鹿児島市の市立玉江小学校で、2021年4月から、鹿児島大農学部の特任専門職員、中野八伯(はつのり)さん(42)の指導を受け、5年生が伊敷長なすを校庭で育てているそうです。伊敷長なすは、鹿児島で親しまれてきた伝統野菜です。鹿児島には全国でも有名な「桜島だいこん」や「安納いも」など戦前からの伝統野菜が多い。中野さんは5年ほど前に伝統野菜の「国分だいこん」を食べ、そのおいしさに驚いた。

伝統野菜は「地域の宝」。大事に残していきたい。そんな思いで県内の伝統野菜を探し求めたところ、約110品種があったそうです。しかし、農家の高齢化などで、育てる農家が減ってしまい、この伝統野菜が消えかけているそうです。2021年から「里帰りプロジェクト」が立ち上がり、伝統野菜を県内5校で育てている。取り組みは徐々に広がり、来年は県内10校程度に拡大の予定。伊敷長なすを児童らとJ.Aの直売所で販売。

収量は多くないが、味はどれも濃くておいしいそうです。児童からは、なすは苦手だったけど、伊敷長なすはみずみずしくて、普通のなすも食べられるようになった」という声も聞かれるようです。毎日新聞より)

ゴミ問題のアプリを開 発した中高生

岡山市の高校生が開発したアプリは、街のゴミの実態を知るアプリです。

地図上に表示されたゴミの情報。どこにどんなゴミがあったのか、一目で分かるようになっていきます。これは岡山市の山陽学園中学・高校地歴部の生徒たちが海洋ごみの原因となるまちのごみ削減への意識を持ってもらおうと開発したアプリです。見つけたり拾ったりしたごみの種類や、見つけた日時、場所を誰でも気軽に入力できます。地歴部では2008年から瀬戸内海のごみの回収や調査、さらにその成果を国際会議で発表するなど、海ごみ問題に取り組む活動を続けています。で部活動が制限されたことなどをきっかけに、市民を

巻き込んで取り組みを広げようと2021年12月から、アプリの開発を始めました。2022年4月から運用を始め、すでに2万件以上のごみの情報が寄せられています。集まった情報は今後部員たちが集約して自治体に提供するなど効率的な回収につなげていくそうです。OHK岡山放送より)

編集後記

子供たちが、社会の問題を大人と一緒に考えて、一緒に行動をしていくことが、とても未来に希望が持てることだと思えました。子供の純粋な気持ち、大人のモチベーションにもなっていて、大人の取り組みを見て、子供に何を大切にしていくかを伝えていくことができるのだと思えました。多くの年代が知恵を出して、協力する社会は、力があると思えました。